

食生活を考える
～子どもたちのより良い食習慣づくり～

I 主題設定の理由

本研究会では、授業を通して、食に対する興味関心を高め、食べ物の働きや栄養バランス、感謝の心など、食に関する知識を深めることにより、子どもたちがより良い食習慣を身につけられることを目指している。また、学級担任と栄養教諭・栄養職員のチームティーチングによる授業のあり方や教材教具の活用方法など、効果的な学習活動の実践にむけてとりくんでいる。

学校教育の一環として、食に関する指導が計画的に実践され、望ましい食習慣づくりと、学校生活を生き生きと楽しく過ごす子どもたちを育成したいと考え、本テーマを設定した。

II 研究の内容

1. ティームティーチングによる授業研究

(1) 小学校特別支援学級自立活動 題材「地域の食べ物を味わおう」

授業者：牧丘第一小学校 教諭 樋口明美，栄養職員 小林由紀子

内 容：地域の特産品である巨峰を使用し、コンポート作りを行った。地域の良さを理解させると同時に、自立活動の育成をねらいとした授業であった。加工しない巨峰とコンポートになった巨峰の味の違いを体験し、地元の味の良さおよび自分で作ったもののおいしさを実感していた。

成 果：特別支援学級における授業実践は初めての試みであり、自立活動における食教育の重要性及び有用性が明らかになった。また地産地消は、子どもたちが実物に触れ、調理し、食べる機会を設けることで、身近に感じ、地産地消に対する意識が生まれることがわかった。

(2) 小学校第6学年体育科（保健） 題材「生活のしかたと病気（生活習慣病）」

授業者：東雲小学校 教諭 保坂恵，養護教諭 山岸元子，栄養職員 小林智子

内 容：単元名「病気の予防」の中で、生活習慣病をとりあげ、病気の起こり方及び原因について、学級担任，養護教諭，栄養職員がそれぞれの専門性を生かした授業であった。病気予防の要因を理解し、自らの生活習慣の課題を見つけ、改善策を考えることをねらいとした授業であった。

成 果：初めて保健部会の一部と連携して行った授業であった。TTの連携がスムーズであり、具体物やパワーポイントを利用し、難しい言葉を専門的な立場からわかりやすく説明することで、子どもたちが真剣に聞く姿が見られ、とても効果的であった。

2, 一人一実践

一人一実践の報告は、各学校で行われた様々な食育に関わる指導の様子を知ることができ、参考になる情報が多くあった。過去に行った授業実践を再度活用した報告があり、継続した研究の効果を感じることができた。食に関する指導を行う機会が増え、子どもたちに食について考えさせるきっかけづくりとなった。

3, 甲州市学校給食センター見学

東山梨地区で唯一の大型センターが完成し、実際に調理を行う現場に入り見学した。栄養教職員だけでなく、教壇教諭が現場に入り見学することは、とても貴重な体験であった。実際に見学したことで、給食ができるまでにどれだけの過程を経ているのか、また、どのような衛生管理が行われているのかを知る良い機会となった。

4, 教材教具の共有化

昨年度の課題に出ていたことをきっかけに、教材教具一覧表を作成した。どこに、どのような教材があるか、一目でわかるものにした。今年度は作成までに止まったため、次年度は実際の活用を進めていきたい。

Ⅲ 成果と課題

1, 成果

- ・授業実践と各校の実践発表により、テーマに迫る研究が推進できた。
- ・授業実践では、それぞれ初めての試みがあり、得るものがあった。特別支援学級における食に関する指導の重要性や、養護教諭との連携の重要性などを実感し、新しい場面や方法での指導を行う研究ができた。
- ・教材の工夫や子どもそれぞれに合った言葉かけなど、きめ細かな指導をすることで学習効果があることが確認できた。
- ・指導案の検討から授業実践までの研究で指導計画や授業の展開、より効果的な指導方法（教材の使い方、発問の仕方、ワークシートの活用など）を管理職・学級担任・栄養教諭・栄養職員のそれぞれの視点をもって意見を交わすことができ、組織として充実した研究ができた。

2, 課題

- ・中学校での授業実践にもとりくめるよう手立てを考えていきたい。
- ・実践した授業が今年度で終わりにならず、次年度で実践が広がるようにしたい。
- ・教材の共有化を行い、授業者の負担を軽減させることが必要である。

(部長 佐藤 麻美)